

資源評価調査事業－Ⅲ

定置網漁獲統計調査

宮本敦史

目的

定置網に関する詳細な漁況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とすることを目的とする。

方法

三重県内の大型定置網漁場のうち、波切・片田・和具・阿曾・贅浦・方座・錦・長島・島勝・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・磯崎・木本・阿田和1号・阿田和2号の17漁場を対象に、令和4定置年度（令和4（2022）年10月～令和5（2023）年9月）の魚種別漁獲量を調査した。

結果及び考察

令和4定置年度の総漁獲量は4,674トンで前年度の57%、過去10年平均の74%であった。魚種別ではブリ（6kg以上の銘柄）が1,705トンで全魚種の36%を占めた。次いでワラサ（2～6kg）が997トン、マアジが414トン、シイラが172トン、サバ類が171トンの漁獲があり、上位5種で全体の74%を占めた。

漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、マルアジ（前年度比24.1倍）、カツオ（同2.9倍）、マグロ類（同2.3倍）、マルソウダ（同1.5倍）、ヘダイ（同1.4倍）、メジナ（同1.3倍）、ウルメイワシ（同1.2倍）、アオリイカ（同1.2倍）、イサキ（同1.1倍）、サワラ（同1.1倍）等であった。

逆に減少した魚種は、イナダ（前年度比20%）、カタクチイワシ（同23%）、サバフグ類（同28%）、サバ類（同40%）、ブリ（同41%）、スルメイカ（同41%）、ムツ（同47%）、ウスバハギ（同56%）、ヒラソウダ（同57%）、イワシ類（同62%）、シイラ（同63%）、マアジ（同67%）、イシダイ（同72%）、その他アジ類（同74%）、ワラサ（同86%）、ヤマトカマス（同87%）等であった。

ブリ（6kg以上）の全漁獲尾数は、245,235尾（前年度の40%）で、過去50年で7番目の漁獲尾数であった（図1上段）。ブリのまとまった入網は3月中旬から4月中旬に集中してみられ、4月だけで全体の58%、3月～4月では全体の93%が漁獲された。全漁場合計の漁獲尾数が最も多かった日は4月9日の29,658尾であり、次いで

表1. 全漁場魚種別漁獲量

令和4(2022)年10月～令和5(2023)年9月			
順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	ブリ	1,704,688	36.469
2	ワラサ	996,505	21.319
3	マアジ	414,233	8.862
4	シイラ	171,887	3.677
5	サバ類	170,849	3.655
6	イサキ	110,432	2.363
7	マルソウダ	95,804	2.050
8	サワラ	91,364	1.955
9	その他アジ類	90,721	1.941
10	カンパチ	82,572	1.766
11	マグロ類	60,034	1.284
12	マダイ	48,414	1.036
13	サバフグ類	38,914	0.833
14	カタクチイワシ	35,000	0.749
15	マルアジ	33,919	0.726
16	ウルメイワシ	31,258	0.669
17	メジナ	30,433	0.651
18	ヤマトカマス	30,067	0.643
19	イワシ類	26,942	0.576
20	イシダイ	22,037	0.471
21	スルメイカ	19,959	0.427
22	イナダ	18,901	0.404
23	ウスバハギ	18,319	0.392
24	ヘダイ	17,351	0.371
25	ヒラソウダ	16,184	0.346
26	ムツ	13,388	0.286
27	カツオ	12,260	0.262
28	アオリイカ	10,884	0.233
29	ケンサキイカ	8,057	0.172
30	コショウダイ	7,973	0.171
31	ヒラマサ	7,442	0.159
32	アカカマス	6,969	0.149
33	トビウオ類	6,431	0.138
34	マイワシ	6,101	0.131
35	カマス類	5,751	0.123
36	チダイ	5,467	0.117
37	ヒラメ	4,926	0.105
38	クロダイ	3,812	0.082
39	ハガツオ	3,146	0.067
40	タチウオ	2,936	0.063
41	カワハギ	2,352	0.050
42	マトウダイ	1,854	0.040
43	ボラ	1,444	0.031
44	ツバス	1,382	0.030
45	ヒラスズキ	1,365	0.029
46	スズキ	1,175	0.025
47	ウマヅラハギ	914	0.020
48	その他イカ類	561	0.012
49	ヤリイカ	36	0.001
50	その他雑魚	180,936	3.871
	合 計	4,674,346	100.000

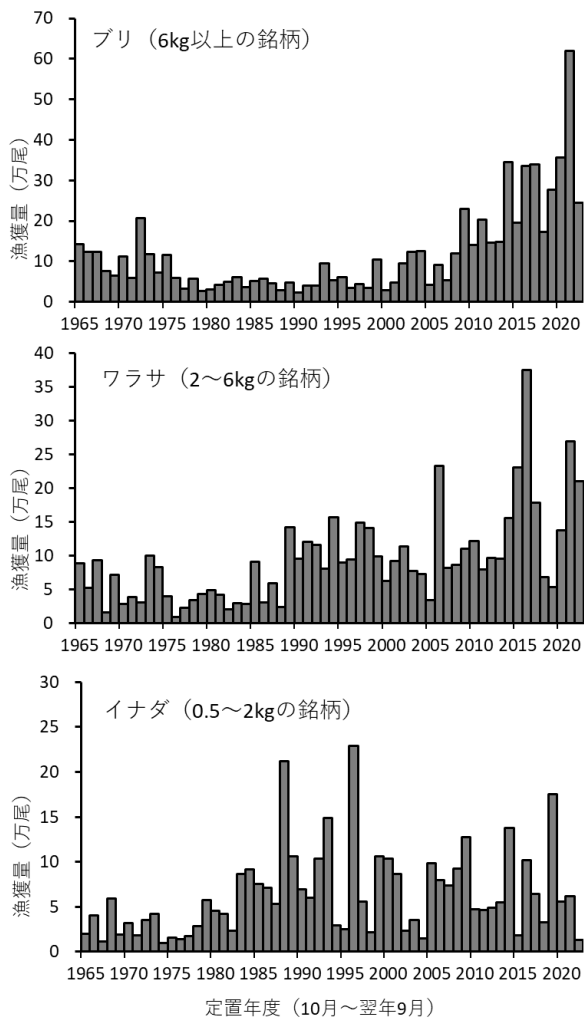


図1. ブリ銘柄別の漁獲尾数の推移 (1965~2022 定置年度)。上段がブリ (6kg 以上の銘柄), 中段がワラサ (2~6kg の銘柄), 下段がイナダ (0.5~2kg の銘柄)。

4月5日の27,636尾, 4月10日の21,973尾, 4月12日の14,121尾, 3月12日の8,930尾の順であった。一昨年度に13日, 前年度は26日あった1万尾以上の漁獲のあった日数は4日に減少した。

ワラサ (2~6kg 未満) の全漁獲尾数は, 210,718尾 (前年度の78%) で, 過去50年で5番目の漁獲尾数であった (図1 中段)。ワラサの入網は, 4月上旬から5月上旬にまとまった。最も多く漁獲された月は4月で, 3月から6月までの4か月で年間漁獲尾数の93%を占めた。全漁場合計の漁獲尾数が最も多かった日は4月27日の25,003尾であり, 次いで5月1日の18,110尾, 5月5日の9,988尾, 4月17日の8,481尾, 4月9日の7,772尾の順であった。全漁場合計の漁獲尾数が1万尾以上の日は, 平成30 (2018) 定置年度から令和2 (2020) 定置年度までは1日もなかったが, 前年度は6日, 今期は2日みられた。

イナダ (0.5~2kg) の全漁獲尾数は, 13,784尾 (前年度比16%), 当歳魚が主体となる8月~9月を入れない集計期間では12,973尾 (前年度比21%) であった。前年度から大きく減少し, 年度の合計では過去50年で48番目の漁獲尾数であった (図1 下段)。

関連報文

三重県 (2024) : 令和4 定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。